

令和6年度 大田区立馬込小学校 自己評価 報告書

○ 本校の概要

令和7年3月3日

○ 学級数 23学級 ○ 児童数722名(令和6年6月10日現在)
○ 教員数32名 …校長1、副校長1、主任教諭1、主任養護教諭1、教諭19(休業含む) ○ 行政系職員2名(事務、栄養士) ○ その他、会計年度任用職員・委託・派遣職員
○ 校内研究 研究主題「みんなで話して意思決定！～主体的で対話的に学ぶ児童の育成をめざして」－生活科・総合的な学習を通して－ 令和6年度「おたの未来づくり」研究実践校
○ 特色ある教育活動 … 馬込の特色を生かした地域学習の充実「シクラメン栽培」「大森麦から細工」「馬込半白胡瓜等特産野菜の栽培」「馬込はかせになろう」、タブレットを活用した「馬込家庭学習DX」
○ 体験活動、人との関わりを大切にする活動の重視 ○ 学校支援地域本部「スクールサポートまごめ」と連携した教育活動
○ 教員の交換授業(第5、6学年における一部教科担任制)、中・高学年での副担任制の導入

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

[illegible]

学個別 校力目・標 教 4 師 力 を 向 上 さ せ ま す	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	C(児童): 学校評価児童アンケート「学校生活は楽しい」で肯定的な回答をした児童の割合	4: すべて80%以上	4 C4 89 P3 93・88	校内研究では「みんなで話して意思決定！」を研究主題として主体的に対話的に学ぶ児童の育成をめざしてきた。おもに、生活科・総合的な学習の時間・おたの未来づくりを中心にすべての教員で取り組んできたが、あらゆる教科等の指導において、教師がファシリテーターとしての役割を意識しながら、児童の主体的対話的で深い学びが充実できるようにすることを大切にしてきた。 学習においても学校生活においても、高いレベルでの「楽しい学校」を実現することが大切である。教師一人一人が一層指導力を磨き、学年会を中心とした教職員間の連携を通じて組織としての学校力を高めていくことをめざしたい。 なお、教職員の業務適正化は学校行事を含む教育課程や校務内容、組織の見直し、支援員の活用等により進められている。	A	9	○ 働き方改革で環境の変化が多い中、いろいろな相談にのっていただき感謝しています。子どもたちが学校生活は楽しいと多く回答していることはうれしいですが、否定的な子どもたちの原因が気になります。
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	2		3: すべて70%以上			B		○ 校長先生、副校長先生のお話を聞いていると先生方のことにも配慮されていることがわかります。先生方の連携のよさが子どもたちの元気につながっていると感じとれます。
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。	3		2: すべて60%以上			C		○ 教師が児童の学びにおいてファシリテーターとしての役割を意識して行っていると思う。児童が授業・学校生活を楽しみ過ごしていると感じます。
						1: いずれかでも60%未満			D		○ 学校生活を楽しんでいる生徒が多いので、安心しました。逆に楽しくないと感じている生徒もいるのでしようから、下の欄の個別目標5にある取り組みも大切であり、必要な事と思います。
											○ 担任の先生だけでなく、学年の中で先生が専科的に教科にかかわることで、児童にもメリハリが出来るので、担任だけでなく専科の先生も含めて、たくさんの目で見えていただきたいと思います。
た自個 め分別 の目学し 標 5 をい き 援 い き ま す と 生 き る	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えるとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	C(児童): 学校評価児童アンケート「先生は、わからないことや困ったことがあるときに、助けてくれたり相談にのってくれたりする」で肯定的な回答をした児童の割合	4: すべて80%以上	4 C4 85 P4 86	学校生活調査やいじめアンケート等の実施結果を踏まえ、個別の面談等を行うことにより、児童の困りに対応し望ましい生活へと改善できるように努めてきた。このような対応について児童、保護者とも約85%が肯定的に捉えている。また、必要に応じてスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携を図るとともに、サポートルーム巡回指導教員や巡回心理士等により、特別支援教育の専門的な観点からの助言を受けて、指導の充実や必要な支援の在り方について検討を深めてきた。いじめ、不登校、問題行動等については、毎週の夕会、いじめ防止対策委員会、不登校対策委員会等を通じて教職員間での共通理解と相応の対応に努めている。 今後もそれらの対応を持続的に行えるようにする。	A	8	○ 子どもたちひとりひとりに寄りそった対応をしていただいていると思います。心の問題は見えづらいところもあるので、担任だけでなく専科の先生も含めて、たくさんの目で見えていただきたいと思います。
		②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。	4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満の教員が回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。	3		3: すべて70%以上			B	1	○ どこかの学校でも抱えている問題かと思われます。できる限りのことでご対応くださると思います。
		③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		2: すべて60%以上			C		○ 多くの種類の人々に会ったり話す機会を得ることにより『世の中には想像以上の人々が居る』と体験することは、大きな財産になると思います。
						1: いずれかでも60%未満			D		○ こどもたちの評価が1〜7目標で低いのが気になる。どこに問題があるのか再認識が必要かなと思います。
											○ 状況に馴染めない児童に対しては担任の先生はもとより専科、その他様々な方々が関わることで良い居場所を探せることもあると思っています。また保護者の心のゆとりにも配慮が必要な事があると思います。
安柔個 心軟別 なで目 教創標 育造 6 環 的 境 な を 学 習 く 空 間 と 安 全 ・	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	C(児童): 学校評価児童アンケート「きまりを守って、安全に行動している」で肯定的な回答をした児童の割合	4: すべて80%以上	4 C4 90 P4 91	教育環境の整備と安全・安心な学校づくりに対する成果評価は、約90%の児童・保護者から肯定的な評価を得ることができた。安全教育には力を入れてきた。実践的な避難訓練を工夫し、教職員や児童自身が振り返りを行うことなども重視してきた。 校舎増築や諸施設の改修が終了した際は、一層望ましい教育環境が構築されるものと期待できる。柔軟に考え、いかに有効活用ができるかを検討していきたい。	A	9	○ 大規模災害時は子どもが登校していれば学校に集合する家庭が多い。こうした場合を想定して学校の役割や機能を周知できるといい。こうした活動で地域・学校・保護者のつながりが増えると思う。
		②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4		3: すべて70%以上			B		○ 環境が整っていないときでさえも、このような評価が得られていることは、先生方の配慮のおかげです。
						2: すべて60%以上			C		○ 災害にいつみまわれるかわからない昨今、さまざまなかたちでの避難訓練を行い、児童もとても真剣に取り組んでいるとうかがいました。とても大切なことだと思います。
						1: いずれかでも60%未満			D		○ ルールを守ることはあたり前の事でなく、日本人の能力の一つであると考えます。
											○ 教育環境が整備され、児童の健全育成を推進していると思います。
学地学 校域校 別をコ・目 つミ家 くユ庭 リニ・ まテ地 すイ域 の核連 と携し て協働 による	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。	①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	C(児童):学校評価児童アンケート「学校や地域のことが好き」で肯定的な回答をした児童の割合	4: すべて80%以上	4 C4 87 P4 91	学校広報を通じて教育活動を理解したり共感したりすることで、本校の教育を肯定的に認識している保護者は多い。今年度は自主的に学級通信等を発行する学級が増え、学校理解につなげることができていた。業務の適正化を念頭に置きつつも、今後も大切なところであると考えている。 おたの未来づくりの教科コンセプトと同様に、学校と地域とのつながりはきわめて重要である。本校は馬込の地域コミュニティの核となるべく、今年度途中からコミュニティ・スクールとしての歩みを始めた。これまで学校支援地域本部、地域教育連絡協議会そしてPTAと深めてきた連携を基盤としつつ、新しい形で地域と共に創り、歩み続ける馬込小学校となることをめざす。	A	7	○ 上記質問を含めてコミュニティ・スクールにて、地域・学校・保護者のつながりを育てていきたい。
		②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		3: すべて70%以上			B	2	○ 以前より馬込小は地域の方々の支えが手厚いので、今後も連携で心配することはないのだろうと思います。
		③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4		2: すべて60%以上			C		○ 学校ホームページの充実、特に毎日学校の様子、取り組みが発信されていることはとても素晴らしいことと思っています。これからはコミュニティ・スクールとして、より充実した内容で先生方にもっと気軽に活用していただけるよう発信できると良いですね。地域の皆様も学校とのかかわりを楽しみにされています。
						1: いずれかでも60%未満			D		○ 先生方の負担増にならない様に願います。
											○ 近づきすぎず、適度な間隔を保っていると思います。

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。